

標 題 : Medicinal agents and metabolic syndrome
薬剤とメタボリックシンドローム

著 者 : Rubio-Ruiz M E, et al.

掲 載 誌 : Curr. Med. Chem. 20 (21): 2626-40 (2013)

要 旨 :

主な病状は高血圧、肥満、脂質異常症、インスリン抵抗性および腎臓障害であるとの合意が存在するにもかかわらず、メタボリックシンドロームの定義は全員の合意に達するにあたって困難に遭遇している。

その変化の3件がシンドロームを定義するであろうが、流行の意見である。

メタボリックシンドロームの発症は、特に過去数年間に流行とみなされる点まで世界的に増えている。

メタボリックシンドロームの治療が違った角度から取組めるのは、それが多面的な健康問題のためであろう。

定期的な運動の実行を意味する健康的な生活様式が、メタボリックシンドロームの患者に提案される。

運動の増加が抗炎症作用を有するのは、運動と炎症性バイオマーカー濃度との逆関連があることによる。

魚、トマト、ニンニク、赤トウガラシ、オリーブ油を含有し、赤ワインを含みつまり抗酸化物と不飽和油脂による地中海食事などの適切な食事が推奨される。

代替医療で使用される伝統的な薬草の調合剤もある。

複数の治療手段が使用できるが、最も一般的なのは肥満、高血圧、脂質異常症、糖尿病、および炎症に対処する医薬品である。

加えて、非ステロイド抗炎症性薬剤などの複数の薬物治療が推奨される。

最近、スタチン、フィブレート、メトホルミンおよびチアゾリジンジオンの新しい作用メカニズムがその抗炎症作用を実証して、メタボリックシンドローム治療への使用の可能性を示した。
